

令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果分析と今後の指導

【国語】

正 答 率	区 分	本校 平均	広島県	全国	誤答問題	領域	誤答傾向とその分析	今後の指導
	知・技 言葉の特徴や使い方	62.1	65.9	64.4	2三ア 38.5% (43.4%)	ことばの特徴 や使い方 知識・技能	「きょうぎの作戦」の意味を考えず、知っている漢字を当てて書いている。形は似ているが微妙に違う漢字を書いている児童も多い。	- 文章を読み取る際、何について書かれているのか要約し表現する活動を行う。 - 漢字や文の構成などをドリルタイム、家庭学習の演習問題に取り入れ、反復練習を行う。
	知・技 情報の扱い方	82.8	88.0	86.9				
	知・技 我が国の言語文化	65.5	76.3	74.6	3ー 61.5% (62.3%)	ことばの特徴 や使い方 知識・技能	述語から主語を選択する問題である。「～は（が）」の言葉が文章に2つ入っているため、適切ではないものを選んでいる。また、「～は（が）」以外のものを選んでいる児童も多い。主語と述語の意味の理解が十分でないと思われる。	
	思・判・表 話すこと・聞くこと	63.2	61.3	59.8				
	思・判・表 書くこと	77.6	70.5	68.4				
	思・判・表 読むこと	72.4	72.6	70.7				
	知 識 ・ 技 能	66.1	71.3	69.8	3四 69.2% (74.6%)	我が国の言語 文化 知識・技能	1 か月の読書の記録の振り返りについて、適切なものを選択する問題である。3 つの読書感想文に共通するものは何かを読み取ることができていない。	
	思考・判断・表現	70.3	67.8	66.0				
	平均正答率	68	69	67.7				

正答率／（ ）は全国正答率

【算数】

正 答 率	区 分	本校 平均	広島県	全国	誤答問題	領域	誤答傾向とその分析	今後の指導
	A 数と計算	66.1	66.6	66.0	3（1） 76.9% (85.5%)	B 知識・技能	直方体の見取り図について、「なんとなく見た目がそんな感じ」で選んでいると思われる。「向かい合う辺の長さは等しい」「向かい合う辺は平行」という、直方体の定義が十分に理解できていない。	- 学習の系統性を意識した教材研究や授業づくりを組織的に行う。 1 月からのまとめ単元を待つことなく、家庭学習、ドリルタイムを利用して前学年の内容を復習する。 - 理解度の低い児童は、個別に指導する。 - 式を見て意味を考える活動を取り入れる。
	B 図形	67.2	67.5	66.3				
	C 変化と関係	41.4	50.8	51.7	4（2） 57.7% (70.0%)	C 思考・表現	1 分間で歩く距離をもとにして考える必要があるが、その考えに至らない児童がいる。また、「道のり÷速さ」の立式ができない児童、立式ができて計算を間違えている（わられる数の0をきちんと処理できていない）児童がいる。計算の力が身に付いていない。	
	D データの利用	61.2	63.0	61.8				
	知 識 ・ 技 能	71.6	73.0	72.8	4（3） 26.9% (31.0%)	C 思考・表現	どちらの問題も、言葉と数を使って説明する問題である。式や答えが合っても、「なぜその式になるのか」「その数字はどのような意味があるのか」について説明できている児童は少ない。	
	思考・判断・表現	48.3	52.3	51.4				
	平均正答率	61	64	63.4	5（3） 42.3% (44.0%)	D 思考・表現		